



人が成長するには遅すぎることありません。職員が切磋琢磨して成長できる組織風土は「支持的風土」と呼ばれます。「ありがと」「ごめんなさい」「よかったね」「いっしょにやろう」と言う四つの言葉を素直に言える風土の事です。

私は介護現場では「支持し合う」事が足りなく思います。「何かの力になりたい」「困ったときはお互い様」と言う当たり前の事が出来なくなっています。「介護技術」よりも前に「人として求められる部分の大切さ」を、「ケアする人をケアする」事を、ご利用者と同じように職員にも「ここにおいて良いんだ」「大切にされている」と思える体験を、そして「支持的風土」を築き上げて行く環境が意識して育つ事を願っています。

(指示では無く支持ですよ)

施設内研修について

嶋田 恭子

高齢者施設として、日々課題に上がるのが、嚥下障害です。誤嚥性肺炎で入院するご利用者も少なくありません。ご利用者の方々が、安心して食事を摂っていたらいいのにか？

また、研修運営委員としては、職員にもっと嚥下について知って欲しいという気持ちもあり、今年初めに言語聴覚士の方に来苑をしていただき、特に高齢者の嚥下について研修を行いました。

多くの職員の参加はもちろんです。真剣に講義を受けている姿勢にも正直ビックリしました。すぐにアトバイスを試したユニットもありました。

今後も実践に繋がる研修計画を立てていきたいと改めて感じた研修でした。



新年にむけて

深代 健一

昨年は元号が平成から令和へと変わり、自分自身もはるな苑での勤続10年を迎えました。

10年という区切りを迎え、今後もご利用者、ご家族の方々によりはるな苑での生活に満足をして頂けるように、日々のケアの見直し、ご家族の方々とのコミユニケーション、ご利用者の笑顔の為に、職員一丸となって業務に励んで参りたいと思えます。

これまでの経験を活かし、新たな取り組みにもチャレンジして参りたいと思います。

天ぷら作り



寿司食べ放題?!



ひなたの散歩

ご利用者とのふれあい

渡邊 淳

令和元年の思い出として最初に思い浮かぶのは、山吹町のユニット企画で行った餃子企画です。最近では焼くだけのおいしく出来上がる物もありますが、企画の際は皮と具を購入し、実際にご利用者に包んで頂きました。皆様昔を思い出さ

れているのが、普段は細かい作業をあまりされない方も率先して作っておられた様子がとても印象に残りました。餃子を包み終わり、ホットプレートで焼いている間も、おいしそうな匂いとパチパチという餃子の焼ける音にひかれて、自然とホットプレートの周りに皆集まっていました。焼き上がった餃子を皆様あつという間に召し上がり「おいしかった」「楽しかった」とおっしゃっていました。

企画以外で思い出に残っているのが施設のエントランスまでお散歩に出たことです。普段あまり外出される機会に少ないご利用者にとって外の景色を見て「紅葉が始まっているね」とい

ったような話をしながら、紅葉した木の葉を見るだけでも季節の移り変わりを感

じて頂けたように思います。

今後もこのような企画を通して、ご利用者に作るこ



餃子パーティー



お散歩

